

特別支援教育課便り

教職員・幼児児童生徒・保護者を応援します！

サポ-ト

NO. 145号

平成29年9月28日発行

秋田県教育庁特別支援教育課 指導班

平成29年度 授業改善プロジェクト ～ 日常生活の指導 ～

秋田県の特別支援学校では授業力の向上を目指して、平成26年度から「各教科等を合わせた指導」の基礎・基本に基づく実践の充実と、その実践の推進において中心的役割を担う人材を育成することを目的に「特別支援学校授業改善プロジェクト」に取り組んでいます。今年度はその最終年度となり「日常生活の指導」に焦点をあて取組を進めています。

6月14日に実施した基礎研修会では、県立支援学校天王みどり学園 島津 憲司 教育専門監より「日常生活の指導の実際」と題して、朝の会の内容を中心とした講義がありました。島津教育専門監自身の実践から、思うように授業が進まなかった事例を取り上げ、その要因をどのように分析し、どのように解決していったかなど具体的に紹介されました。朝の会においては、個に応じた手立てを十分に講じた上で、教師や友達同士でそれぞれの頑張りを褒め合ったり、認め合ったりして成功体験を分かち合える「集団を生かした授業づくり」をしていくことが大切であることを学びました。また、「日常生活の指導」はキャリア発達を促す要素が多く含まれていることから、キャリア教育全体計画との関連を十分に意識して進めていく重要性も確認しました。

午後のグループ協議では、各校担当者がそれぞれの実践事例を紹介し、課題や改善点などを話し合うとともに、必然性のある状況づくりや支援量の適正等、「日常生活の指導」を進めていく上で大切にしたいポイントについて再確認しました。

今後、県北・県央地区と県央・県南地区の2地区に分かれて研究会を実施します。会場校の教育専門監も参加し、授業・事例提示と協議による授業づくりの要点を整理した上で、各校の指導実践を進めていきます。また、年度末にはそれぞれの実践を記録としてまとめ、成果を蓄積していく予定です。

<授業・事例研究会>

地区	日にち (会場校)	授業提示者	事例提示者
県北 ・ 県央	10月31日 (比内支援)	○比内支援学校 松尾佑美教諭 ○提示内容「着替え」 ※朝の活動から朝の会までを提示	○比内支援学校かづの校 湊奈緒教諭 ○提示内容「朝の会」 ※ビデオ映像による事例提示
県央 ・ 県南	10月10日 (ゆり支援)	○ゆり支援学校 小野祐美子教諭 ○提示内容「朝の会」 ※朝の活動から朝の会までを提示	○稲川支援学校 山口梓教諭 ○提示内容「教室掃除」 ※ビデオ映像による事例提示

他県人事交流で青森県に勤務されている比内支援学校
たかのす校、藤本博明先生より寄稿いただきました



青森県立浪岡養護学校
教諭 藤本 博明

「改 め て の 気 付 き」

浪岡養護学校は、病気を治療しながら学習することができる学校です。独立行政法人国立病院機構青森病院に隣接しており、入院治療している児童生徒が主な対象となりますが、通院治療を続けながら家庭から通学している児童生徒や自宅で療養している児童生徒も在籍しています。

私は、現在、高等部生活学習コース（知的障害特別支援学校代替の教育課程）1学年の担任をしています。今年度、高等部生活学習コースでは、現場実習へつなげるため校内実習を始めました。学校近隣の企業、道の駅「なみおか」に御協力いただき、イベントのチケットをカッターで切り取る軽作業を請け負いました。当初、生徒たちは千枚単位のチケットを切り取るという作業内容に驚きを隠せない様子で、ただ数をこなしていくことだけに気持ちが向かい、作業も雑になりがちでした。この状況が変わったきっかけは、校内実習期間中、道の駅「なみおか」で行われたイベントに、生徒の一人が足を運んだことでした。自分が携わったチケットを多くの方々が手にして、景品等と引き替えて喜んでいく姿を目の当たりにしたことで、この生徒は、心から「うれしかった」「やってよかった」という感想を他の生徒に伝えていました。その後、一枚一枚丁寧に仕上げようと取り組みへの意識が大きく変化しました。

これまで、秋田県の知的障害特別支援学校高等部での校内実習でも企業の請け負い作業を取り上げて指導していますが、「生徒が本物に触れること」や「相手の反応を実際に生徒が見聞きすること」が活動意欲を高めることに改めて気付かされました。病気等で活動内容や活動時間を制限されることの多い生徒たちですが、今回、「人の役に立つ」体験ができたことは、今後、学校生活を送る上で貴重な財産になったことと思います。

浪岡養護学校での勤務もあと半年となりますが、ここで学んだことを秋田県の特別支援教育に生かしていけるように努力いたします。



学級の様子



校内実習の様子